



ITスキル診断サービスのご紹介

IT産業における人材育成の重要性

現在のIT産業は、ハードウェアやソフトウェアといった製品単体から、顧客企業が求める課題解決に対して、ビジネス戦略やソリューションを提案し、実現する「サービス」まで幅広く展開している。IT産業の質を大きく左右するのが人材のスキルである。売り上げや利益に占めるサービスの比重が高まったことにより、個々の人材のスキルを管理し、育成することが、企業の競争力に直結するようになった。

「IT人材白書2011」より

ITスキル標準V3 に準拠したスキル診断

ITスキル標準V3 (ITSS) とは、IPA(独立行政法人情報処理推進機構)が定めている個人のIT関連能力を職種や専門分野ごとに明確化・体系化しIT人材に求められるスキルやキャリア(職業)を示した指標です。

本サービスではITSSで示されるキャリアフレームワーク(11の職種、35の専門分野、7つのレベル)に応じた知識と業務経験、実務能力について適切に診断いたします。

【キャリアフレームワーク】

職種	マーケティング	セールス	コンサルティング	ITエンジニア	プロジェクトマネージャー	システムエンジニア	ソフトウェアエンジニア	ネットワークエンジニア	データベースエンジニア	セキュリティエンジニア	その他
専門分野	マーケティング戦略の立案・実行 マーケティング施策の立案・実行 マーケティング施策の効果測定 マーケティング施策の改善	営業戦略の立案・実行 営業活動の立案・実行 営業活動の効果測定 営業活動の改善	経営戦略の立案・実行 経営活動の立案・実行 経営活動の効果測定 経営活動の改善	IT戦略の立案・実行 IT業務の立案・実行 IT業務の効果測定 IT業務の改善	プロジェクトの立案・実行 プロジェクトの効果測定 プロジェクトの改善	システムの立案・実行 システムの効果測定 システムの改善	ソフトウェアの立案・実行 ソフトウェアの効果測定 ソフトウェアの改善	ネットワークの立案・実行 ネットワークの効果測定 ネットワークの改善	データベースの立案・実行 データベースの効果測定 データベースの改善	セキュリティの立案・実行 セキュリティの効果測定 セキュリティの改善	その他
レベル7											
レベル6											
レベル5											
レベル4											
レベル3											
レベル2											
レベル1											

【11職種のスキル診断】

- マーケティング
- セールス
- コンサルタント
- ITアーキテクト
- プロジェクトマネジメント
- ITスペシャリスト
- アプリケーションスペシャリスト
- ソフトウェア開発
- カスタマーサービス
- ITサービスマネジメント
- エデュケーション

ITスキル標準の活用例

● ITサービス企業

企業戦略に沿った戦略的な人材育成・調達を行う際の指標となり、自社に必要な人材のポートフォリオを示すための共通言語となります。独自の取り組みによって既にスキルに関する何らかの基準を持つ企業においては、スキル標準との対応関係の整理を行うことにより、自社の基準の客観的な位置づけを把握することが可能となります。

● ITエンジニア個人

自らのキャリアパスのイメージを描き、その実現のために自らのスキル開発をどのように行うべきかを判断する指標となります。さらにキャリアに応じて必要な経験や実績を具体的に把握するなど、キャリアアップやキャリアチェンジを図るための指標としても活用できます。ITスキル標準の指標に沿って段階的に成長することにより、エンジニアリングに基づく実務能力を習得することが可能となります。

● 各種教育・研修サービス提供機関

教育・訓練プログラムの提供に際して、いかなるスキルの向上を図るのかを客観的に提示する際の指標となります。

お問い合わせ先:

株式会社デナリコンサルティング

TEL:03-6890-1121 / E-mail: info@denaliconsulting.jp



サービス概要

ヒアリングシートと診断レポート

診断は、ヒアリングシートの回答と業務実績の提出をうけて実施します。レベル4以上の認定には必要に応じて面接による審査も実施し、公正な診断を行います。

【ヒアリングシート】

達成度[プロジェクトマネジメント]

自分のスキルを達成度に従って選択してください。

専門分野	システム開発 2.0
目標レベル	3
調査スキル	適程度
診断日	2011/09/28 15:41:27

① プロジェクト統合マネジメント

プロジェクト統合マネジメントにおいて、専門性の発揮度を観察して下さい。

- 他を指導することができる高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 他を指導することができる高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 他を指導することができる高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 専門性を保ち、実用型にしている
- 上記以外

② プロジェクトスコープマネジメント

プロジェクトスコープマネジメントにおいて、専門性の発揮度を観察して下さい。

- 他を指導することができる高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 他を指導することができる高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 他を指導することができる高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 高度な専門性を保ち、実用型にしている
- 専門性を保ち、実用型にしている



【診断レポート】

共通スキル項目	レベル	評価
リーダーシップ	4.4	82
プロジェクト管理	4.1	58
顧客満足	3.8	55
コミュニケーション	3.8	55
問題解決力	3.8	55

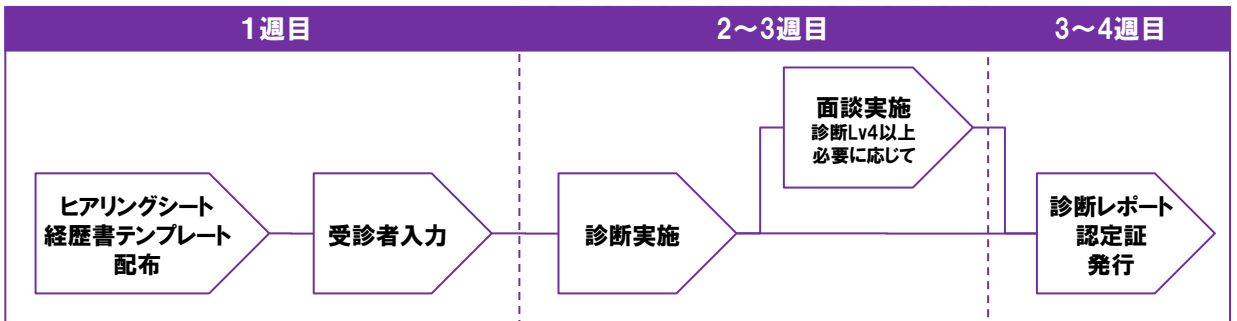
専門スキル項目	レベル	評価
プロジェクト統合マネジメント	3.8	55
プロジェクトスコープマネジメント	4.2	80
プロジェクトリスクマネジメント	4.7	87
プロジェクトコストマネジメント	3.8	55
プロジェクト品質マネジメント	4.7	87
プロジェクトセキュリティマネジメント	3.8	55
プロジェクト環境マネジメント	4.7	87
プロジェクト関係者マネジメント	3.8	55
プロジェクトコミュニケーション	4.7	87
プロジェクトマネジメント	3.8	55
プロジェクトマネジメント	4.7	87
プロジェクトマネジメント	3.8	55

- スキル熟達度を7段階、小数点1位までの数値で判定
- スキル熟達度をスキル項目別にレーダチャート化
- スキル項目別診断結果詳細を棒グラフで表示
- 達成度指標をエントリー、ミドル、ハイの3段階でレベル表示
- 強化すべきスキル項目の判定とスキルアップアドバイス
- レベル3以上については認定証を発行



お申込から認定証発行までの流れ

受診者20名程度のモデルプランによる診断スケジュールは下記の通りです。面談が不要な受診者には診断後随時レポートを発行いたします。



面談実施は2~3割を想定

お客様のニーズ

- 自社のエンジニアのスキル実態を把握したい
- 自社のエンジニアのスキルを業界全体と比較したい
- 自社のエンジニアに自発的なスキル向上を促したい